



Title	語学文学会報告
Author(s)	
Citation	語学文学, 33: 43-45
Issue Date	1995
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8380
Rights	本文ファイルはNIIから提供されたものである。

語学文学会報告

分校研究短信

○会員の異動

- 小林 和彦 平6・3・31 定年退官
吉原 英夫 平6・4・1 札幌校新任
中島和歌子 平6・8・1 札幌校新任
鈴木 信義 平6・9・5 逝去

○語学文学会学術研究発表会

十一月四日(金) 午前九時半から函館校大会議室において第十七回の学術研究発表会が行われた。概要は次の通り。

- 1 『古今和歌集両序鄙言』の接続表現 旭川校 永田 信也
- 2 単元学習について 札幌校 吉原 英夫
- 3 『松前方言考』の資料的価値 函館校 夏井 邦男

○語学文学会総会

学術研究発表会に引き続き、総会を開いた。会議の冒頭、故鈴木信義(函館校)、故上岡勇司(札幌校)両会員へ黙禱を捧げた。主な議事は次の通り。

- 1 会長に安東璋二(函館校)を選出
- 2 『語学文学』第三十三号の編集方針
- 3 大学院入試の改善

○語学文学会文学散歩

総会終了後、午後一時から約四時間、函館校教官の案内で、立待岬、元町を中心に函館の文学散歩を実施した。その後、恒例の懇親会が「古稀庵」で行われた。

○北海道教育大学国語教育学会(札幌校)

- 1 第二十九回全道国語教育研究大会の開催 平成6・11・19(土)
○研究主題 「学ぶ側に立つ教材化」
○研究授業 会場は各授業者勤務校
「どちらが生たまごでしょう」(三年)

「雨は大地に入る」(三年) 真駒内南小 村上 智樹
澄川中 市川 恵幸

○研究討議 会場は澄川中学校

「学ぶ側に立つ教材化のあり方」

2 月例研究会、夏・冬の学習会の開催

○北海道教育大学函館国語会

平成六年度研究大会の開催 平成6・11・19(土)

○研究発表大会(十時～十二時)

一、教師の働きかけについて 函館・日吉丘小 加藤 正男

二、高校における国語基礎学力の今 函館・西高校 能代 欣哉

(司会) 函館・潮見中 荒木 康博

○記念撮影・昼食(十二時～十三時)

○講演(十三時～十四時)

蠣崎波響の詩について 函館校 高木 重俊

○シンポジウム(十四時十分～十六時三十分)

新しい学力観と評価のあり方

(提言者) 函館・附属小 吉川 邦彦

函館・西 中 大沢 敏弘

室蘭・商業高 大柳 正仁

(司 会) 函館校 内藤 一志

シンポジウムに続く総会に先立ち、九月に亡くなった鈴木信義先生に黙禱を捧げた。鈴木先生は本国語会の事務局長として、会の運営、『函館国語』の編集と、文字通り会の中心として御尽力なされた。直前まで先生自身が編集をなさっていた同誌第十号が、はからずも先生の追悼号となってしまった。

総会は、会計報告、大学院設置に伴う規約改正が諮られ、了承された。

なお、研究会に際し事前に「会報」第四〇号、会当日に『函館国語』第一〇号が発行された。

十八時より会場をホテルロイヤル柏木に移して懇親会を行ったが、五十余名の参加があり、研究会同様盛会であった。

○北海道教育大学旭川校国語国文学会

平成六年度、第十回研究発表会を、次のように開催した。

・日時 平成六年十一月十二日(土) 午前十時より午後五時三十分。

・場所 旭川市五条四丁目 旭川市勤労者福祉会館 大会議室。

・研究発表

- 1 読書行為試論 大学院二年 山田 敏弘
- 2 読みの力を育てる授業の条件 大学院二年 渥美 伸彦
- 3 表現する楽しさ・喜びを味わわせる作文指導

和寒町中和小学校教諭 相馬美智枝

4 書く力をつける作文単元学習の実践——発想を豊かにし「書き方」を工夫させる指導 附属旭川中学校 中西 信行

5 芦田恵之助綴方教授研究 教育大学旭川校 村井万里子

・講演 旭川市青雲小学校校長 舟橋 敏

私の愛した国語教育

・総 会 旭川市青雲小学校校長 舟橋 敏

事務報告、会計報告、その他。

・懇親会 旭川市二条五丁目 独酌三四郎にて。

また、毎月第二金曜日の夕刻より、旭川校にて、学会月例会を開催している。毎回、約二十名余の参加者があり、活発な討論が行われている。

○釧路国語教育学会

第一回 六月十三日(月)

年間計画審議

国語科の「えらび もとめる」学習にむけて

釧路校附属小 庄子 剛

第二回 七月一日(金)

附属釧路小学校研究大会

第三回 九月十二日(月)

「民衆の中から」の単元をめぐって

釧路校 石井由紀夫

第四回 十月二十八日(金)

附属釧路中学校研究大会

第五回 十一月十四日(月)

古典のとびら・「竹取物語」について

釧路市立景雲中 藤森美由紀

楽しく、力のつく短作文の実践

浜中町立茶内第三小 湊谷美樹治

第六回 二月十三日(月)

説明文教材の指導について

釧路市立寿小 村田 貴洋

なお、十二月十日(土)には、「釧路国語教育を語る会」が、本学会と釧路市国語教育研究会・釧路国語教育研究会・釧路市学校教育研究会国語部会との合同主催で、盛大に行われた。

○北海道教育大学岩見沢校国語国文研究会《第十八回》

平成六年度・国語国文研究会開催 八月七日(日) 於大会議室

※総合同司会 釧路市立美原中学校 鈴木 一朗教諭

■研究発表

(1) 『書くこと』の意味——文集・詩集づくりの実践から——』

……………沼田町立沼田小学校 山下 幸教諭

(2) 『生徒指導の機能を生かした学習指導』

……………深川市立多度志中学校 小熊 孝一教諭

(3) 『新しい国語教室を目指して』

……………札幌市立二条小学校 紺野 宏子教諭

■総会(活動報告、決算報告、予算案審議、平成七年度からの会費

値上げの件、その他)

■パネル・ディスカッション……「教育実践から」

テーマ『国語科教育における評価』

司会者 紺谷 隆一教諭 (札幌市立中央中学校)

パネラー 本田 俊司教諭(奈井江町立奈井江小学校)

宮本恵里子教諭 (浜益村立黄金小学校)

金子 昭博教諭 (苫小牧市立啓昭中学校)

堀 裕嗣教諭 (札幌市立厚別中学校)

i、研究会終了後、恒例の懇親会を第三談話室(和室)にて開催。全道各地から会員達が多く参加し、種々の論議を続行していた。
ii、『国語国文研究会会報』第十八号を、十二月二十日に発行した。26頁組みで、「実践研究論文」「会員の声」等を掲載している。